

令和4年度 第1回吉田町総合計画等審議会（議事録）

1. 開催日時

令和4年8月25日（木）10:00～12:10

2. 開催場所

吉田町役場2階 町民ホール

3. 出席者

氏名	役職等	備考
大石 千恵子	吉田町農業委員会委員	
増田 学	吉田町商工会長	
八木 達良	ハイナン農業協同組合専務理事	
松浦 光紀	南駿河湾漁業協同組合常務理事・吉田支所担当理事	
藁科 昌利	静岡うなぎ漁業協同組合長	
田島 逸雄	吉田町社会福祉協議会長	
増田 竜彦	住吉区自治会長	
松浦 祐之	川尻区自治会長	
桐田 不二雄	片岡区自治会長	
中村 道雄	北区自治会長（自治会連合会長）	副会長
岩根 政次	吉田町さわやかクラブ連合会	
松浦 セツ子	吉田町女性団体連絡協議会長	
田中 啓	静岡文化芸術大学教授	会長
大箸 武史	(株)静岡銀行吉田支店長	
原田 佳典	島田掛川信用金庫地方創生部長	代：八木千尋氏
飯田 千恵子	(株)FM島田放送番組審議会委員	
大石 和歌菜	保育園保護者(すみれ保育園) 吉田町男女共同参画プラン検討委員会委員	
成岡 和子	島田公共職業安定所長	
鈴木 史朗	静岡県中部地域局長	オブザーバー

（敬称略）

※ 塚本成男委員、鈴木佐知子委員が欠席

4. 町長あいさつ

- ・本日は、第5次吉田町総合計画後期基本計画進捗管理報告書及び第2期吉田町まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価結果報告書、第2期吉田町まち・ひと・しごと創生総合戦略の改定について審議していただく。
- ・総合計画は法律が変わり、策定義務がなくなった。しかし、吉田町としては、まちづくりの基本と考えているため、今後も総合計画を作成し実行していくこととしている。
- ・総合戦略については、人口減少社会にいかに対応していくかを考えたものである。
- ・吉田町は、総合計画と総合戦略の2の計画でまちづくりを行っている。それぞれ企画課が取りまとめを行い、行財政推進本部で内部評価をし、審議会でも外部評価を得た上で最終的に決定する。そのため、皆様の視点から厳しいご意見をいただきたい。

5. 会長あいさつ

【静岡文化芸術大学 田中啓委員】

- ・新型コロナウイルス感染症が第7派に突入し、終息には程遠い状況となっている。「with コロナ」の時代に向け社会の対応が変わってきている
- ・委員の皆様には第5次吉田町総合計画後期基本計画及び第2期吉田町まち・ひと・しごと創生総合戦略進捗状況を御確認いただき、「with コロナ」という状況を踏まえ、ご意見をいただきたい。

6. 委嘱状の交付

事務局から委嘱状の交付について説明した。なお、今年度から新しく委員を引き受けていただいた皆様は、本日から令和5年8月17日までの期間とさせていただく。

7. 委員自己紹介

事務局からの自己紹介の後、委員名簿の1番から順に自己紹介を行った。

8. 副会長選出について

昨年度まで副会長を務めていた久保田哲男様が委員を辞されたため、副会長の選出を行った。田島逸雄委員から北区自治会長の中村道雄委員が推薦され、本審議会でも承認された。

9. 議事

9.1. 第5次吉田町総合計画後期基本計画進捗管理報告書（案）について

事務局から配布資料の確認を行った後、「資料No.1 第5次吉田町総合計画後期基本計画進捗管理報告書（案）」について説明を行った。

● 【田中会長】

- ・この議事については、第5次吉田町総合計画後期基本計画の進捗管理報告書（案）について、委員の皆様にご意見をいただくものである。
- ・新しい委員の方もいらっしゃるため補足をさせていただく。総合計画というものは、吉田町にとって最も基礎的な計画である。総合計画は8年間の計画であり、前期と後期それぞれ4年間となっている。前期基本計画は終了し、現在は後期基本計画の3年目に突入している。本日は後期基本計画2年目の進捗管理に係る報告書になっている。内部評価と外部評価があり、外部評価が本日の審議会である。
- ・委員の皆様には、役場で自己評価した内容の妥当性についてご意見をいただきたい。また、資料について不明な点があれば、併せてご意見をいただきたい。

● 【〇〇委員】

- ・P8「交通人身事故発生件数」について、現状値が191件で目標値が150件以下になっている。令和3年度の実績値が123件となっているが、この計画は令和2年度から令和5年度であるため、目標値の150件以下は令和5年度までの目標値でよいか。令和3年度の実績値が123件でAという判定になっているが、令和3年度自体に目標値がないことから、判定することはできないのではないか。

→ 【田中会長】

- ・目標値の設定によって判断が変わってくると思われる。質問の趣旨は、目標値は令和5年度で150件以下の場合に達成となる。令和3年度時点で123件というのは、目標値をクリアしているが、現時点で評価をしてよいのかということか。

→ 【〇〇委員】

- ・この目標値は令和3年度の目標なのか、令和5年度の目標なのかがわからない。目標値を令和5年度とするなら、令和3年度の基準が見えないのに123件という実績値がAという判断でよいのか。

→ 【田中会長】

- ・150件以下という目標値はいつのものなのか。また、令和3年度の目標値はいくつなのか。

→ 【事務局】

- ・この事業の目標値については、毎年記載されている数値以下を目指している。施策を重ねていくことで安定して目標を達成する事業になるが、単年度で評価を行っているためこのような評価になっている。期間が終了した後に総括評価を実施する。その時点で判断する予定。

→ 【〇〇委員】

- ・もし令和3年度の目標が120件であれば評価がAにはならないのではないかと。

→ 【田中会長】

- ・交通事故については、新型コロナウイルス感染症の影響により減少していることもあると思うが、目標値を達成しているということは事実である。

● 【〇〇委員】

- ・ P 7 の「吉田町地域防災指導員養成講座及びジュニア防災士養成講座受講者数」について、目標値の 500 人に対し、令和 3 年度の実績値が 640 人であり、達成されていることは理解できる。その中で、中学生の防災養成講座の受講者数と講座を受けた人に対して、今後、地域でどのような取組を依頼していくのか。防災指導員の高齢化が進んでいるため、こういった人材を地域の防災訓練で積極的に活用してほしい。

→【事務局】

- ・ 中学生の受講者数に関しては、手元に資料がないため、確認させていただきたい。今後の取組については、担当課とヒアリングを実施し、実施計画を作成していく。現段階では、詳細な内容についての回答ができない。

→【事務局】中学生の受講者数の質問に対する回答

- ・ 昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響でジュニア防災士養成講座は行われなかったが、防災課についても若い世代への防災教育の必要性を感じているため、各小学校 5 年生に向けて防災教育を別途開催している。
- ・ ジュニア防災士養成講座の実績値は 0 になっているが別の対応を行っている。今年度については開催予定であるため来年度は実績値をお示しできると思う。

● 【〇〇委員】

- ・ P 7 の「住吉地区浸水対策計画の策定率」について、令和 3 年度の実績のため 0 % になっていると思われるが、最近になり担当課から県と進めている計画がまとまったと聞いている。そのため、令和 4 年度には 100 % になるのかどうか。

→【事務局】

- ・ あくまで、令和 3 年度の実績になるので、今年度の実績値については、来年度御報告させていただく。

→【〇〇委員】

- ・ この計画について、令和 4 年度で策定率が 100 % になったと仮定すると、計画の進捗率というものは、新たに目標として設定されるということか。計画が 10 年という長期計画のため、住吉区自治会としてこの長期にわたる計画をなるべく早く進めていただきたいと考えている。

→【田中会長】

- ・ この事業は数値で示したとき 0 か 100 かになる。計画作成途中で進捗状況を数値化できると良いと思う。一方で総合計画にはこの指標が出ているため、新しく指標を設定することが難しい。そのため、指標だけでなく進捗率などを示した補足資料を加えると実態がわかりやすく良いと思うが、このようなことは可能か。

→【事務局】

- ・ 今期の総合計画では策定率が指標となっているため、進捗状況の詳しい内容はこの資料には示していない。今後の計画については、そういったことを踏まえた指標の設定を検討していきたい。来年度評価する際は、数値化だけではなく、進捗状況がわかるような具体的な補足説明も含めた形で御報告させていただくことでもよいか。

→【〇〇委員】

- ・ 住民の皆さんが見てわかるような報告を次回からお願いしたい。

→【田中会長】

- ・この指標以外にも、同じような指標が見受けられるため、その事業に関しても細かい記載をお願いしたい。

●【〇〇委員】

- ・P9の「高血圧有病者の割合」について、対象者が40歳から74歳となっているが令和5年度以降はこの数字は変わるのかどうか。

→【事務局】

- ・対象の年齢設定の根拠は把握していない。

→【〇〇委員】

- ・資料の文字を大きくしていただきたい。

→【田中会長】

- ・少なくとも会議の資料だけでもA3にさせていただくなどの対応をお願いしたい。

→【事務局】

- ・次回資料を作成する際は見直していく。

●【〇〇委員】

- ・将来都市像を目指して各課が目標を設定しており、多岐に渡って事業を行っていると思うが、これらの事業に絞った根拠や目標値の設定の根拠を教えてください。

→【田中会長】

- ・目標設定全般の根拠ということでよいか。

→【〇〇委員】

- ・P16の「各小中学校における学習者用コンピューター1台当たりの児童・生徒数」の事業について「令和2年度達成済のため、令和3年度の事業実績なし」となっているが、この目標は無くなったということか。

- ・目標が達成した事業については、新たな目標を設定するべきではないのかと思う。

→【事務局】

- ・目標の設定については、将来都市像に向けた基本理念立て、目標を決定し事業を行っている。細かい事業については、実施計画で整理している。

→【田中会長】

- ・既に達成済の目標値についてはどうお考えか。

→【事務局】

- ・当方としては、初期に設定した目標値を途中で変更することは基本的に考えていない。達成した目標に対して目標値を上げると、総括評価を行う時に目標が達成されない可能性がある。あくまでも、最初に設定した目標を達成することができたかを考えている。

→【田中会長】

- ・この事業について、目標を変更する場合には予算の関係や役場の方針などがあるため、目標値をさらに上に設定することは難しいが、目標値という形で形ではなく、具体的な記述などで工夫していただきたい。

● 【〇〇委員】

- ・目標値や実績値の判定が難しいと思う。次回から、単年度の目標値を設定し、単年度の目標値に対する定量的判断ができるよう、要望としてご検討していただきたい。

→【田中会長】

- ・可能なものと難しいものがあると思うが、単年度の実績値に対して何を基準にして評価してよいか分かりにくいいため、今後検討していただきたい。

→【事務局】

- ・4年間で目標を達成するという中で、単年度ごとに目標値を設定できるかどうか難しいと思うが、検討していきたい。

→【〇〇委員】

- ・単年度の目標の積み上げで4年間の目標を設定するので、単年度の目標がないことはおかしいと思う。

→【田中会長】

- ・目標値には様々なタイプがある。毎年徐々にレベルを上げていき、最終年度に一番高い目標値を達成するものについては、計画の途中年度でも単年度お目標値を設定しやすい。交通事故発生件数のように高い目標を目指すというよりは、毎年ある一定レベル以下に抑えるものについては、その数値が毎年継続して達成できているかを判断すればいいと思う。目標値のタイプによって、何ををもって達成したかどうかという判断基準が違ってくるため、そのあたりがわかりやすい資料を作っていくとよいと思う。難しい話になるので、事務局と協議しながら進めていきたい。

● 【〇〇委員】

- ・すべての事業に関連したことになるが、資料の令和3年度の実績を見ると、数値の意味が分かりやすいものとわかりにくいものがある。令和3年度の実績値が累計であるのか単年度のものなのかははっきりしていただきたい。

→【田中会長】

- ・先ほどの意見と併せて、指標の示し方をわかりやすく表示できる方法を事務局と検討していただきたい。

● 【〇〇委員】

- ・P8「救急車両の平均現場到着時間」と「火災車両の平均現場到着時間」の事業は、消防署ではなく、消防団のことを言っているのか確認したい。
- ・令和3年度の実績内容・実績の欄に「消防車両の現場到達時間の短縮を図ることができた」とあるが、ここに記載のある数値だけではわからない。また、目標値に対し、実績値が達成されていないのに、現場到達時間の短縮を図ることができたとは言えないのではないか。

→【事務局】

- ・本事業の対象は、静岡市消防局の数値である。
- ・時間が短縮できていないのに時間が短縮できたという記載は、事案によって現場への到着時間の短縮を図ることができた件数が1件でもあったので、このような記載になっているのではないと思う。実際の実績は短縮を図れていない。記載に関してわかりにくい部分があるため担当課に確認し、今後記載方法など検討させていただく。

→【田中会長】

- ・担当課に確認し、間違いがあれば修正をしていただきたい。

●【〇〇委員】

- ・全体的に疑問に感じているが、令和3年度の取組内容・実績は記載されているが、今後の課題や解決策の記載がないため、検討していただきたい。
- ・総括表を見ると半分程度の事業が未達成となっている。半分の事業が未達成という大きな要因は何か。大半は新型コロナウイルス感染症を理由にしているが、言い訳のように感じる。確かに新型コロナウイルス感染症の影響により実施できない事業もあるが、新型コロナウイルス感染症の影響以外のものでC評価になっているものは今後どのように対応していくのか。

→【事務局】

- ・期間内で目標の達成を目指していくので、現時点で達成していないものは最終年度に達成できるように努力していく。
- ・集客等を指標としている事業については、指標を設定した時点では新型コロナウイルス感染症という課題がなかったため、新型コロナウイルス感染症の影響を受けたものが多くなっていると思う。新型コロナウイルス感染症の影響を受けていない事業については、最終年度には目標を達成できるように取り組んでいく。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響を受けている事業については、何もやっていないという訳でなく、代替案を検討して実施しているものもある。

→【田中会長】

- ・事務局側としては、総合計画の途中であるため今後努力していきたいという回答であった。
- ・コロナウイルスの影響を受けた事業は、代替案を検討して実施した事業もあったという認識でいる。

9.2. 第2期吉田町まち・ひと・しごと総合戦略評価結果報告書（案）について

事務局から「資料No.2 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略評価結果報告書」を説明した。

●【田中会長】

- ・総合戦略は、町が人口減少に対応するために取り組むことをまとめた計画であり、本資料は、その評価結果の報告書である。総合計画と重複する部分はあるが、特に人口減少対策ということで、雇用、観光、子育て分野の事業が多く盛り込まれている。
- ・役場で自己評価した内容の妥当性について、皆様からご意見をいただきたい。

●【〇〇委員】

- ・以前、町外の方からしらす等の特産品を提供できる飲食店があれば教えてほしいとの要望があった。鰻を提供する飲食店はたくさんあるが、しらすを提供できる飲食店が少ない。新たな観光スポットの創出の中で、しらすのような特産品を提供できる場所を作っていただきたい。

→【田中会長】

- ・担当課へ対応していただくよう要望していただきたい。

● 【田中会長】

- ・総合戦略の中には雇用に対する施策が多いが、現在の地域の雇用などの状況を伺いたい。

→ 【〇〇委員】

- ・島田地域の有効求人倍率は6月の時点で1.14倍となっている。新型コロナウイルス感染症の影響は落ち着いてきたが、円安、ウクライナ情勢、原材料費の高騰などの影響を注視していく必要がある。吉田町の有効求人倍率は高く、島田地域全体を牽引している。
- ・今年度から、対面による面接会などを積極的に行っていきたい。

● 【田中会長】

- ・関連して、金融業や小売業に従事されている方に御意見をいただきたい。

→ 【〇〇委員】

- ・商工会としては、町と連携を進めていきたいと考えている。商業分野では、まちづくり公社と連携し、新たに吉田町の特産品を周知する取り組みを始めたところである。小規模事業者について、町の担当課と情報交換を行うことで、未来が見えてくると思う。

→ 【〇〇委員】

- ・たくさんある事業の中で優先順位をつけて事業を進めていただきたい。外部評価では、重要項目に絞った内容を審議するのもよいと思う。新型コロナウイルス感染症の話題が多く出ているが、SDGs、DX、カーボンニュートラルなど社会情勢が転換期に差し当たる中で、社会的課題に対応したまちづくりをしていくことが重要であると思う。この計画は少し前に作られたため、新型コロナウイルス感染症、SDGs、DX、カーボンニュートラルなどが盛り込まれていないため、急激な社会情勢の変動に対応できていないと思う。今後はそういった点を含めて検討していただきたい。

→ 【田中会長】

- ・総合計画と比べると途中で計画内容が変更しやすいと思うので、対応を検討していきたい。

→ 【〇〇委員】

- ・金融機関、商工会、町などと連携を図り、事業の創生やインターンシップといった企画を実施し、企業の支援を行っていきたい。計画において、最終年度の目標を決めているのであれば、単年度の目標を決めた方がいいと思う。長期的な目標を設定している事業については、達成率を単年度目標に設定してもいいのではないかと思った。

● 【〇〇委員】

- ・当初から審議会に参加しているが、この計画はたくさんの委員の方の意見が盛り込まれたよい計画だと思う。計画の中には数字だけで判断できないことは多くあると思う。
- ・社会情勢が急速なスピードで変化しているため、このような社会情勢の変化にスピード感をもって対応していくことが重要である。また、人の多様性も重要になると思う。

→ 【〇〇委員】

- ・この計画は、町民に落とし込むものなのか。一生懸命取り組んでいることが町民に伝わりにくい部分があり、もっと町民に伝わるものでもいいと思う。

→ 【田中会長】

- ・この計画は、国を挙げて地方創生に取り組む内容であり、各自治体に作成するように促した計画である。多くの委員の方がおっしゃられているように、時代に合っていない部分もあるため、次の計

画を策定する時は社会情勢を踏まえ、大きく変える必要があると感じた。

- 【田中会長】

- ・子育て施策に関する内容について、御意見をいただきたい。

→ 【〇〇委員】

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、人と関わらずに子育てをする中で、子育て支援センターの方の努力によって、子育てが楽になったと感じた。

- 【〇〇委員】

- ・チャレンジ教室の講師をしていたが、若い世代への継承ができなかった。様々な事業について若い世代が参加していただけるような工夫をしていただきたい。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響もあると思うが、生活環境や働き方が変化していることが、事業が継承できない理由ではないかと思う。

- 【〇〇委員】

- ・雇用について、不安な部分がある。吉田町の特産品である鰻をもっとPRしていただきたい。また、鰻の事業者を減らさない取り組みをしていただきたい。

- 【〇〇委員】

- ・漁業者と加工業者で話し合いをしてきたが、問題が多く困っている。全体を取りまとめることができる強力なリーダーがいれば解決するのではと思う。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、漁業者と組合で対応方針を検討しているが、うまく進んでいない。

- 【〇〇委員】

- ・毎年8月に農業委員によって、耕作放棄地の調査が実施される。町としては、耕作放棄地を減らすという目標を立てているが、放置され、急速に増加している。給排水施設や道を整備すれば農地として再利用できるかもしれない。しかし、莫大なお金がかかるので難しい。様々な理由で農地は失われてきた。これ以上の減少は、食糧の安全確保の点で許すことはできないと考える人は多い。農地を放置して荒地になっても、食糧を生産する場として回復する余地は少しありますが、何年もかかると思う。土の上部をアスファルトやコンクリートで覆ったら、ほとんど回復不能になると思う。農地は何世代も人の手が加わり、心を込めて丹精してようやく作物が育つ場所になりました。皆さんの食を支える場となりました。言い換えれば、農地とは人と人の存在のために作りかえた場なのです。また、農地の保持は互いに思いやる心がなければ成り立ちません。どうか粗末に扱わないでいただきたい。

9.3. 第2期吉田町まち・ひと・しごと創生総合戦略の改定（案）

事務局から「資料No.3-1 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）、資料No.3-2 第2期吉田町まち・ひと・しごと創生総合戦略改訂版（案）の新旧対照表」を説明した。

- 【田中会長】

- ・ P 1 9 ページの 2 つの指標を改めるという議題である。委員の皆様からご意見ご質問をいただきましたと思う。

- 意見質問なし

以上